

一票で変える女たちの会

かわらばん

第 63 号 2025 年 12 月 15 日



買春者を処罰する法を！……角田由紀子
買春処罰と、性売買女性の非処罰化と支援を含む
「性売買防止法」の制定を！……村山千津子
＜このディストピアな社会に いま思うこと＞

外国人とも仲良く暮らそう……高原伸夫

悪夢再びどころか……織田範子

介護保険が崖っぷち!!……坂元良江

議員立法による再審法改正を一日も早く……伊東 輝

TV わたしに 渡鬼～渡る世間は鬼ばかりに見る「女」と「家」と「結婚」……角田由紀子

ESSAY 私の現在地—『あしたの朝、頭痛がありませんように』を読んで……伊藤充子

不当な難民不認定に抗議するエリザベスさんに支援を！……with Elizabeth

買春者を処罰する法を！

角田由紀子

日本が買春天国とみられていることを知ってもさほどショックではなかった。売春防止法は七〇年間買春を禁じながら、その違反者への処罰規定を欠くという奇妙なものだったからだ。おかげでこの国では買春はし放題。警察官を含めて買春者が法を犯しているとは思えていない。しかし、これは

今や国際的な人権感覚からはあまりにも時代遅れだ。スウェーデンは一九九九年刑法に買春者の処罰規定を取り入れ、性を売った女性への処罰を止め、支援と福祉策をとる法律を作った。これは北欧諸国に広がり、北欧方式と呼ばれ二〇一六年にはフランスもこの法律を制定した。

二〇二五年一月に発覚したタイ人少女に性交類似行為をさせた事件がきっかけになって、ようやくこの国でも買春者処罰を求める声が上がりはじめた。こと、人権に

関しては国際基準から遙か低いところをうろうろしている日本の汚名返上をしたい。

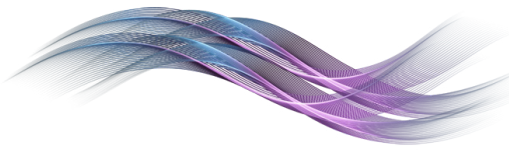
売防法の奇妙な規定もこの社会の買春に極めて寛大な対応の結果である。江戸の昔から遊郭が堂々と存在してきた国で「女を買う」ことは一人前の男の証拠のように扱われてきた。明治に入りキリスト教徒を中心とした廃娼運動があつたが、もともと韓国などとは違つてキリスト教徒は少数派であることもあり、運動は広がらないできた。そこへアジア・太平洋戦争である。徴兵制で全国津々浦々から普通の男たちが戦地に送られた。貧しい文化の中で育った男たちは、戦地の休養日に女を買う以外の過ごし方を知らなかった。兵士管理に良い方法と、軍隊は業者の後ろ盾になり、場合によっては軍自ら慰安所を作った。日本人兵士の行くところ、アジア中に南洋

の島々まで軍隊慰安所がくまなく作られ内地の遊郭等から貧しい女たちが集められ、戦地へ送られた。男たちは休みの日には門前市をなした。なんともあさましく貧しい限りだ。女を買うことはいわば官許の「遊び」であり、兵隊さんが骨休めをする時間であった。どれだけの男たちが「女買い」を経験し楽しんだことか。

戦争に敗れてそういう男たちが大挙して故郷へ戻った。彼らは戦地で覚えた「女買い」の味を忘れられなかったのかもしれない。政府が敗戦からわずか三日目に最初に行った仕事が進駐兵のために「特殊慰安所」(R A A)をつくり、彼らに日本の女性をあてがうことだった。その施設は東京を中心に全国へ広がった。しかし、一九四六年には兵士の間の性病流行などがあり、R A Aは閉鎖されたが、男が女を買うおぞましい日常は今日まで生き延び、今やインバウンド客の中では「買春大国」の名誉ある地位を占めている。

今回、偶然に(女性たちは買春反対運動を続けてきてはいた

が)タイ人少女問題で「買春者は処罰すべきではないか」と国会質問で取り上げられた。素早い身のこなしが売りの総理大臣は法務大臣に検討を命じた。そこまではよかったが、法務大臣は、買春者の尊厳も守る必要があるとか、国民の自由を不当に制限しないようにとか、おそらく考えたこともないテーマの前に迷走しているようだ。今こそ、人権が大事、個人の尊厳が大事と主張してきた国民の出番だ。たまには人権のテーマで国際的に先頭を走ってみたい。その方が経済大国という見果てぬ夢にしがみつくよりもずっと国民が誇りをもてるようになるのではないか。(二〇二五年一二月三日)



買春処罰と、性売買女性の非処罰化と支援を含む「性売買防止法」の制定を！

村山千津子

緊急院内集会「日本の人身取引と買春社会―文京区タイ人少女人身取引事件から見えるもの」報告

今年一月二日にColabo(コラボ)主催で緊急院内集会「日本の人身取引と買春社会―文京区タイ人少女人身取引事件から見えるもの」が開催された。ほんの数日前の呼びかけにもかかわらず一四〇人の会場が満席となり立ち見が出るほどの関心の高さで、立憲民主党、共産党、れいわ新選組、社会民主党の国会議員が一四名、ほか多数の地方議員も参加した。当日の様子はメディアでも報道されたのでご存じの方もいるかもしれない。以下、講演者の報告を紹介する。

人身取引と買春社会を問う

長くタイ人女性の支援にかかわってきた齋藤百合子さん(〇〇ラボ理事、大東文化大学国際関係学部

特任教授)は、今回の事件では店のオーナーが「労働基準法違反」のみで摘発されていて、「売春防止法」「不同意性行為等罪」「人身売買罪」等では摘発されていないことを指摘した。日本には人身取引加害者に対する厳罰と被害者の保護や支援を謳った包括的な人身取引禁止法がなく、「人身売買罪」での摘発はこれまでほとんどないという話には驚いた。また、「タイ人の一二歳の少女」が人身売買されたことがセンセーショナルに取り上げられているが、日本国内でのホストやコンセプトカフェなどの業者による若年女性への「搾取」や、「騙し」によって売春を強要している現状は、「人身取引議定書第三条」の「人身取引」に該当するのに、政府も警察もメディアも日本の人身取引問題とし

て取り上げないと批判。女性の体を買うことが男性にとって日常的な「風俗」「遊び」となっている日本社会に対して、性売買が搾取と暴力の「人身取引」「人身売買」であると突きつけていくことが必要だと痛感した。

角田由紀子弁護士（Colabo 理事）からは性売買に関する日本の法律の問題点が語られた。一九五六年に成立した売春防止法では「売買春は禁止」を謳っているが罰則はなく、当事者女性のみに五条の「勧誘等」として逮捕、罰金を規定。「風俗営業法」で「売春」ではない商業的「性交類似行為」（世界のどこにもない奇妙な用語）が生まれ、実質的には売春防止法は無効化すでに性売買は「合法化」されているのが現実である。「詳しくは前掲参照」

女性を処罰の対象としない

Colabo 代表理事の仁藤夢乃さんは、若年女性に対する性搾取がますます悪化している現状を報告

してくれた。「新宿歌舞伎町だけでも性売買業者は二〇〇名以上、買春者一〇〇名以上を毎晩確認。路上に立つ性売買女性は一晚五〇〜一〇〇人程度」「円安の影響と日本には買春処罰がないことがSNSで拡散、外国人買春者が急増。しかし日本人買春者が大半である」「女性に対する取り締まりが強化されたことによる悪影響が拡大している。管理売春・風俗店に移行する女性が増加」「半グレ組織やトリクユウ、ヤクザなどの反社会的組織による管理売春の横行」など、メディアが報じない、社会が見て見ぬふりをする現場がどのようなものなのか、参加者たちは言葉もなく聞き入っていた。

仁藤さんが強調していたのは女性を処罰の対象とせず被害者と位置づけ、脱性売買支援を提供することが必須だということ。これなくしては性売買をなくすことはできない。売春・買春とともに禁止する禁止主義ではなく、買春処罰と同時に性売買女性の非犯罪化と脱性売買支援を含んだ「北欧モデル」（スウェーデンやフランスで導

入されている）の「性売買防止法」の制定を提言した。

また、風俗店における性売買営業の禁止（風営法改正）も必要だと指摘する。「風俗店における性売買の例」として資料に示された「プレイ」とは「首輪、手枷、口枷、ビンタや浣腸、飲尿、排便や食糞、写真や動画の撮影」などなど、口にするのもおぞましい内容がこれでもかと列挙されている。妊婦や生理中の女性も売買の対象となっている。果たして、これを「仕事」だの「セックスワーク」だなどと言う人がいるのだろうか。

女性が体を売らなくてもいい社会を

当日は性売買経験当事者の五人（「性売買経験当事者ネットワーク灯火」）からも動画と音声でメッセージが寄せられた。それぞれ以下の見出しで思いが語られた。

「少女人身取引事件は、

特別なことではありません」「買うことはいつときの快楽でも、私にとっては一生の傷なのです」「性売買の中にいる女の子たちを責める法律を変えてください」「少女や女性が体を売らなくてもいい社会を目指してください」「性売買の中にいる女性が『処罰の対象』であり続ける限り、被害はなくなりません」

タイ人少女の人身売買や高市総理の買春処罰に前向きな国会答弁などにより、ようやく日本の異常な性売買の実態に対する関心が高まってきたように感じる。当日も議員や参加者による熱心な質疑と討論が交わされ、また後日、集会

緊急院内集会

日本の人身売買と買春社会

—文京区タイ人少女人身取引事件から見えるもの—

2025年
11月21日(金)
17:00-18:00

衆議院第一会館
地下4F 第8面談室

参加費 無料

内容

- ・ タイ人少女人身取引事件 - 人身取引問題専門家としての立場から
大東文化大学国際関係学部特任教授
元JICA人身取引対策事業アドバイザー 廣藤 百合子
- ・ 日本の少女買春と性売買の実態
一般社団法人Colabo代表理事 仁藤 夢乃
- ・ 日本における性売買関連法
弁護士 角田 由紀子
- ・ 性売買経験当事者による発言
性売買経験当事者ネットワーク灯火

主催：一般社団法人Colabo
https://colabo-official.net/
info@colabo-official.net

参加申し込みはこちら

に参加した女性議員からは臨時国会で性売買に関連した質問が行われている。今後性売買廃止の法律制定に向けた行動が広がっていくことを切に願っている。

(二〇二五年一二月五日)

◆主宰団体の Colabo では、「女性人権センター」建設プロジェクトのため、支援金を募集している。

<https://congrant.com/project/colabo/17660>

◆ ゆうちよ銀行からの振込

記号：11310 / 番号：13950251

名義：シヤ) コラボ

◆ 他行からの振込

ゆうちよ銀行

店番：138 / 口座種目：普通

店名：一三八 (イチサンハチ) 店

口座番号：1395025

名義：一般社団法人 Colabo

このディストピアな社会に いま思っている

外国人とも 仲良く暮らそう

高原伸夫

冒頭に「外国人とも仲良く、助け合って暮らそう」と記しておく。参院選での、参政党の「日本人ファースト」が俄に人々の支持を集めて、大量当選まで果たし、その影響でネトウヨが「外国人来る

な、出て行け」と騒いでいる。以前からあった在日韓国・朝鮮人迫害の在特会や、埼玉のクルド人へのヘイトスピーチ（蕨市では「クルド人はゴキブリだ、駆除しろ」）に加えて、新たにかなりの人々が、外国人排斥の潮流に飲み込まれて来ている。

一番の特徴は、今の日本社会の暮らしにくさの原因を全て外国人になすり付けようという、あから

さまな策動が広がっている事。この流れに便乗して、日本社会状況悪化の元凶だった政府自民党が、責任逃れのチャンスとばかりに、外国人の滞在を規制・コントロールする方策を政府機関総動員で議論することになっている。一部野党もそれに乗せられ動いていて、このままでは国際社会から孤立した、外国人排斥国家へと転落してゆくのではないかと危惧される。

そこへ今回は高市新総理突然の台湾有事参戦発言問題で、日中関係がメチャクチャに悪化の様相を呈してきた。円安で大幅に増えていた中国人観光客からのキャンセル続出で関連業者は被害甚大になり、様々な分野の貿易も滞り、文化交流にも支障が続いているのに、高市氏は全く聴く耳持たず発言撤回をしない。それを面白がって「覇権大国に毅然と立ち向かっている」と讃美する人々やメディアが現れており、最新(2025/12/2)の支持率が七五%というから驚異、というより脅威。中国相手の参戦が、どれほど深刻な事態を招くのかを想像しな

い人々が大量に現出している状況が怖い。現実の問題として、このままでは日本経済は大打撃を受けることになる。一番大事な隣国との関係を悪化させるのは愚の骨頂。そしてこの外交オンチな初代女性総理は札付きの好戦派で、国民の目指すジェンダー平等とも全く無縁の人物であった。

日本は諸外国との友好関係なしには、経済も諸分野も成り立たない国だ。そしてこの国では少子化が進んで、外国人無しにやっていけない社会になっている。島国根性の偏狭なナショナリズムに陥ることなく、世界に門戸開放するしか道はない。

改めて「外国人とも仲良く、助け合って暮らそう」と訴えたい。

悪夢再びどころか……

織田範子

この文章を書くにあたって以前私が投稿させて頂いたのを読んだら、今回書こうと思っていた内容

と全く同じ悪夢が書かれていました。安倍、菅コンビの政権が発足して支持率六五%をたたき出した時の絶望感でした。悪夢再びどころかもっと酷い悪夢になっているのが今の状況だと思います。

高市内閣支持率も朝日新聞、毎日新聞、東京新聞ですら六〇%以上。読売新聞、産経新聞に至っては八〇%以上の支持率をたたき出しています。驚きより呆れ果てた民意だと思います。

まだ戦後八〇年しか経ってなく戦争の被害者たちがたくさんいらしゃって、しかも平和教育をずつと受けてきた人達が八〇%はおられると思うのに憲法改正？日本憲法の宝でもある憲法九条の見直し？を考えている今の与党に八〇%が支持するなんて狂気の沙汰であると思います。石破さんは



初め嫌な総理大臣になるのではないかと危惧していましたが、案外今までの首相より戦争の反省を語ったり余程ましだなあといい始めた途端に高市内閣になり、初めての女性総理大臣と持ち上げ、安倍さんを踏襲すると話しても支持する国民に絶望感しかありません。

しかもあの当時よりもっと悪いのは自民党よりもっと右寄りの野党が存在しているし、立憲民主党も変にビビッていて鋭いつつ込みをしない。共産党なんか鼻もひっかけてもらえない。テレビのニュース番組のコメントーターは右寄りで勉強不足の芸人かタレントなどを各局が揃えています。以前のコメントーターはジャーナリストとか学者がいたけど今はそんな専門家はいないので、的外れの言いたい放題で腹が立つのでテレビをすぐ切りたくなります。この右傾化は日本だけではなく世界中に蔓延しているのもっと怖いんです。あのトランプに満面の笑みではしゃいでいる日本のトップを見るだけでゾッとしました。高市さんはタカ派的な存在なのだから

トランプにも毅然とした態度を取って欲しかったです。

これからの日本は少子高齢化、気候変動、一次産業の衰退。問題は山積みです。憲法や議員数削減に手を付ける前にやることは満載のはずです。日本人を大事にして欲しいのは当然ですが、と言って人口激減の日本では外国人の手

介護保険が崖っぷち!!

坂元良江

高齢になった親を姥捨て山に捨てに行く昔話がありました。

少し暮らしがよくなって、親の介護は長男の嫁の仕事となりました。核家族化が進み、男の子は結婚して家庭を持ち家を出ました。残された親の面倒を見るために娘が家に残ったり、田舎の親を無理やり都会のマンションに連れてきて介護するケースも多くありました。女性たちは介護のために仕事を辞めたのです。介護は女の家族

を借りないと回りません。介護だつて農業だつて工場だつて皆手伝ってもらっています。これからの日本はもっともつと手伝わってもらわないとやっていけないと思います。国民皆が真剣に考えれば今に支持率が落ちるのではないかと少しだけ期待しています。

が担っていました。

二八年前、一九九七年介護保険制度ができ、介護はやつと女の責任ではなく「介護の家族からの解放」「介護の社会化」が実現したのです。介護保険制度を作ったのは団塊の世代の女性たちでした。そして全ての人たちが四〇歳から介護保険料を支払い始めたのです。まもなく八八歳になる私も年金からしつかりと天引をされています。その代わり介護が必要に

なつた時には安心して自分の望む介護を受けることができるはずでした。

その介護保険が今崩壊寸前の危機に瀕しています。二〇二四年四月まず在宅介護の報酬額が減額されました。(かわらばん第五六号)その結果この一年介護スタッフを派遣する事業所が次々と倒産、閉鎖しました。今回は要支援、要介護1、2を保険から外すことが検討されており介護は家族のもとに押し戻されつつあるのです。介護報酬は安く介護ヘルパーの人手不足は深刻です。事業所のない地方自治体もあり隣の町や市から通ってくるヘルパーの労働条件、通勤事情の悪さは深刻です。

そこに今回持ち上がったのは介護保険料の自己負担を現在の一割から二割に引き上げるという案です。それに加えて今までは介護保険から別途出していたケアプラン作成料も利用者負担にというのです。自己負担金の支払いが厳しく介護保険に頼らず家族介護に戻るしかないケースが増えるでしょう。介護がまたまた家族の責任に

戻るのです。

公的予算を介護保険にあてることで介護業界の経営が安定し、人材確保が可能になり、ヘルパーの過酷な労働条件も解決されます。年金暮らしの高齢者が安心して必要な介護を受けることができるのです。そのために支払い続けている介護保険料であり税金です。約束の介護が受けられないのではこれは詐欺だと国民は怒るべきです。防衛費の増額よりも国民の暮らしと命のために税金は使われるべきです。介護疲れの無理心中のニュースをこれ以上聞きたくありません。

「介護の家族からの解放」「介護の社会化」は死守しなければなりません。

(二〇二五年一二月七日)

◆以下の緊急集会にZOOM参加しました。

STOP 介護崩壊 「許さない！ 利用料の二割負担／ケアプラン有料化／要介護1、2の介護保険外し」

主催…ケア社会を作る会

共催…高齢社会をよくする女性の会／ウイメンズアクションネットワーク

ク
日時…二〇二五年一二月五日

於…参議院議員会館

議員立法による再審法改正を

一日も早く

伊東 輝

▼現在の状況

「えん罪被害者のための再審法改正を早期に実現させる議員連盟」(以下議員連盟と記)が再審法改正案を今年六月一八日に野党六党で提出したこと、法制審議会が再審法見直しを諮問して今年四月から会議を重ねていること、を本誌六一号に書いた。

その後、議員連盟の改正案は国会閉会により継続審議となり、法制審は一二月二六日迄に一回会議を開き、証拠開示の問題と、再審開始決定に対する検察の抗告の問題について、まとめている。これを一〇月三〇日朝日新聞が一面トップで報じたのを機に、他紙でも度たび報じるようになった。

法制審による改正案は二〇二六年の通常国会の早期に提出されるようである。

二つの案の考え方の違いを次に見る。

▼議員連盟による法案と法制審の見解

1. 議員連盟による法案

- ①再審における証拠の全面開示
- ②再審開始決定に対する検察の不服申し立ての禁止
- ③再審請求等における裁判官の除斥および忌避
- ④再審請求審における手続き規定の整備(期日指定など)

2. 法制審の考え方(①と②について)



https://www.youtube.com/watch?v=-oLss_-PjDQ
20251106 再審法改正（鴨志田弁護士）

①証拠の開示は、再審請求理由と関連する証拠に限る（この案が有力）

②再審開始決定に対する検察の不服申し立てを禁じるべきでない

議員連盟は①について、袴田事件で再審無罪の決め手となった五点の衣類のカラー写真は最初の再審から約三〇年開示されなかったことから見ても、「法制審の考え方は現行法より後退する」と警戒する。②についても「袴田事件で再審開始決定から九年して確定し、一〇年後に再審無罪となったように、法制審の考え方では審理が長期化し請求人は高齢になる」ので、冤罪被害者の救済のために

②は必須と考える。

二つの案の違いについて、鴨志田祐美弁護士が左上のサイトでわかりやすく説明している。

他の再審請求事件でも袴田事件と同様の問題があるが、次に今年動きがあった主な事件について紹介する。

▼再審請求中の事件のその後（本誌五八号参照）

三鷹事件

一九四九年の事件。竹内景助さんは第一次再審請求中に獄中死。

長男（事件時小学一年だった）が第二次再審請求。二〇二四年四月に最高裁で棄却。同年九月に第三次請求。今年一月に初めて証人調べがなされる予定であったが、一〇月二〇日に弁護人が請求人に連絡をとったところ、請求人は今年五月に死亡していたことが判明。一〇月二二日に第三次再審終了。

菊池事件

一九五二年に起きた殺人事件

で、ハンセン病患者とされたFさんは当初から無実を訴えていたが特別法廷で死刑判決。第三次再審請求が棄却されたあと一九六二年九月に死刑執行された。二〇〇一年ハンセン病国家賠償訴訟で国が敗訴、謝罪。二〇一六年には、Fさんの裁判が行われた「特別法廷」について、最高裁は違憲として謝罪した。二〇二〇年一月国民的再審請求。二〇二一年四月にFさんの遺族も再審請求。この二つを併せて二〇二六年一月末迄に再審の可否が判断される予定。

名張事件

一九六一年名張市の地域懇親会で出されたブドウ酒（農薬が混入）を飲んだ五人が死亡、一二人が傷害を負った事件。奥西勝さんは当初から無実を訴え、一審は無罪だったが一九七二年に死刑判決確定。奥西勝さんは何回も再審請求。二〇〇五年第七次再審請求で名古屋高裁が再審開始決定をしたが、二〇一〇年最高裁は取消して差戻し。二〇一二年名古屋高裁が再審開始を取消し。二〇一三年最

高裁は特別抗告を棄却。第八次再審請求も棄却。二〇一五年第九次再審請求中に奥西さんは八九歳で死亡。妹が第一〇次再審請求をしたが二〇一四年一月最高裁で特別抗告棄却（宇賀克也裁判官は再審開始との意見）。二〇二六年一月に第一次再審請求の予定。妹の岡美代子さんは九六歳。

狭山事件

一九六三年五月女子高校生が殺され、石川一雄さんが犯人とされた。証拠には問題が多いが死刑↓一九七七年無期懲役確定。同年第一次再審請求。一九九四年二月仮出獄決定されるも第二次再審請求は二〇〇五年に棄却。二〇〇六年第三次再審請求。二〇〇九年以後三者協議が重ねられるも一六年経過。今年四月に証拠調べが予定されたが、石川一雄さんは三月一日に死亡。四月には妻の石川早智子さんが第四次再審請求、同じ担当者で審理されることに。しかし検察官は二〇二六年三月に意見を述べるとした。二〇二六年三月には担当裁判長は退任予定。

大崎事件

一九七九年の事件。原口アヤ子さんは一貫して無実を主張しており、再審請求は三回開始決定が出たが、いずれも検察官の不服申し立て後に棄却。第四次再審請求は今年二月二五日に棄却（ただし最高裁の宇賀克也裁判官は再審開始の意見。同裁判官は今年七月退任）。二〇二六年一月に第五次再審請求予定。原口アヤ子さんは九八歳。

福井中学生殺人事件

一九八六年の事件。一審は無罪だったが、一九九七年懲役七年判決が確定。二〇〇四年の第一次再審請求は棄却、第二次再審請求で二〇二四年一〇月再審開始決定。今年七月一八日再審で無罪判決。八月一日確定。

この件の当事者前川彰司さんも「証拠開示がなければ、私の無罪判決はさらに遠のいただろう」と述べ、議員立法による再審法改正が必要と訴える。

▼むすび

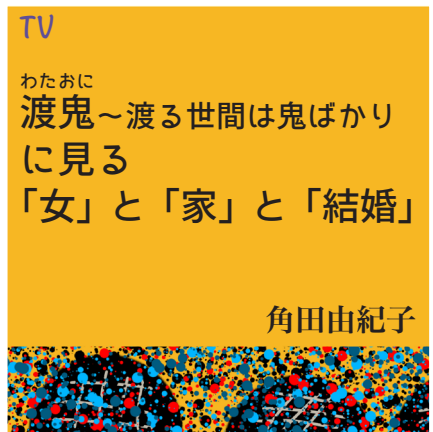
以上から、えん罪被害者のためには、再審法改正は議員連盟案で成立させることが必要（残る問題は法制審議会で時間をかけて検討すればよい）と考える。

（二〇二五年二月二日）

追記

一二月三日元裁判官六三名が声明を出し、再審を巡る法制審の議論を批判した。名張事件の第七次再審で再審開始決定をした元裁判官、大崎事件の第三次再審で再審開始決定をした元裁判官も参加している。

<https://sp.m-jiji.com/article/show/3665092>



長い期間愛されて

作家橋田壽賀子とプロデューサー石井ふく子のコンビで一九九〇年から二〇一一年までTBS TVで夜九時から放送されていた家族をめぐるドラマ（当時のことばではホームドラマ）は長年人気を博してきた。橋田さんが二〇二一年に亡くなった以後もさまざまな再放送されている。二〇二五年には一年をかけて五シリーズを一举放映するという。

当時の主な視聴者は主婦層とのこと。私は九〇年代は子育ても弁護士業も現役だったので、あわただしい日々で夜九時からとはいえずテレビの前でゆっくり見る時間は

なかった。家事の合間にちよこちよこ見ていた感じだ。さて、ほぼ引退し暇な時間がやって来て、ひょんなことから渡鬼の再放送を時々見るようになり、自分もリアルタイムで生きてきた時代を振り返ることになった。たまたま再放送されていた九〇年代部分を見た。

家制度はしぶとく生きながらえていた

一番驚いたのは、家制度はいかに「辛抱強く」生き残ってきたかということだ。このドラマに描かれているような結婚を通じた人間関係は今でも健在ではないだろうか。ジェンダー平等が普通の日本語となった今の時点でみると「女」と「家」と「結婚」が、ある時期にはこのドラマの中心的テーマであったようだ。まるで白黒くっきりと描かれた絵を見るようにそれらが何であったのかが見えてくる。結婚は嫁に行くことであり、嫁に行くと夫の家の最下位の身分を与えられる。夫の実家で

姑に仕える日々であり、自分の意思で何かを行うことは極めて難しい状況に投げ込まれる、姑の視点から「嫁」として許容されることしか許されない。家の外に仕事を持つのであれば、主婦として家事・育児の手扱きは許されず、性別役割分担に忠実に従わねばならない。よくもあんな生活を耐えてきたものと感じ入ってしまった。私は幸いに夫の実家や親たちと深く関わる生活をしてこなかった中で、自分の仕事を優先した生活を送れた。九〇年代では嫁に行くの大抵は夫の実家で同居となる。出てくる家族は結構広い家に住んでいた。中産階級はあの程度の広い家に住んでおり、だから同居できたのだろう。家の広さはともかく、そういう息が詰まりそうな環境の中で女性をさらに窒息させていたのは姑の嫁いびりだった。

姑の嫁いびりは暴力

今のことばでいえばモラルハラメントでしかない。DVの認知度を高める活動の中で重視したの

は、目に見えない「暴力」の存在であった。暴力はイコール身体的なそれとししか理解されていなかったから、目に見えない精神的暴力は暴力と認知されなかった。最初のセクハラ裁判（身体接触はない、言葉による性的侮辱による）を起こしたのは一九八九年であったし、DVという概念が日本に紹介されたのは一九九二年であったから、ドラマの時代に新しい「暴力」への認識が始まっていたことになる。強烈な嫁いびりは、精神的暴力以外の何物でもない。夫の精神的暴力すら暴力と認識されない社会にあつて姑の精神的暴力には名前がなかった。いじめられた嫁は密かに自分が姑になったあかつきには息子の嫁に思いつきり厳しく（意地悪く）当たって仕返しをと決意するしかなかったという悲しい虐待の連鎖だったのではない。姑の嫁いびりを制度的に支えたのは家制度であつたことは間違いない。虐待者と被虐待者が一つ屋根の下で暮らすことは、嫁には地獄の日々であつたろう。結婚を媒介とする疑似家族は虐待を挟

んで冷たくみじめな関係しか築けない。反旗を翻さずにそこにおとなしくはまっていることが、良き嫁であつたろう。人権無視も甚だしいが、家族の中には人権の居場所がない。つまり、姑が嫁を、夫が妻を、親が女の子を暴力的に支配することで家族の秩序が維持されていたのではないか。「女の子」と書いたのは、男の子は親の期待を担っていたので虐待されにくかったと思われるからだ。

旧日本軍との類似性

暴力で秩序を維持するということ私はすぐに旧日本軍を思い出す。家族になつたが最後運の尽きとはこのことか。こういう家族の関係からはお互いを尊重するという思想は生まれようがない。そこで育つた人は他人との関係を暴力でしかとらえることはできない。旧日本軍兵士の暴力に徹した冷酷さは、こういう家庭が育んだのではないか。それは学校教育の中にも企業での人間関係の中にも、いわば「初期設定」となっていたので

はないか。むかし、「暴力教室」というアメリカ映画があつたが、家制度・家父長制に基づいて力人を抑圧し貶める関係は姑の嫁いびりの原型にあるのではないか。さらに、そのようにして秩序をようやく保っていた家族は「人権」とか「人としての尊厳」を一顧だにしない個人を再生産し続けてきたのではないか。

人権番外地

見ているだけで心痛む嫁いびりの熾烈さに画面の外で立ちすくみ怯えながら私は日本社会がいかに人権番外地であつたかを思った。ネットを見ると、家制度の人間関係は絶えることなく、古典的な「嫁」とか「義実家」なる奇妙な造語の下でさらに増殖し続けているのではないかと暗い未来を予測してしまった。



夫の母親は、大地主のご長男で東大法学部を出て「赤」の弁護士になった人と結婚し、その姑にかにいじめぬかれたかの一部始終を、私が結婚したときに話してくれた。「自分は決してあのようになるまい」と深く決意したという。嫁いびりの本質は、九〇年代の話も夫の母親が体験した戦前のそれとは大差はない。「女」と「結婚」を通じていまだに伝承されてはいないかとふと思った。いびられた嫁はどんな思いで自分の子どもを育ててきたのか。ドラマの中で「幸楽」のいびられ嫁の泉ピン子は愛情深い母親に見えたが家制度の毒は断ち切られたのだろうか。姑になつたピン子もドラマで描かれていらいが時間がなくてそれはいない。このドラマが今でも人気があるというのは何を示しているのか、興味が湧く。当時の現役の主婦たちは何を思っ見ていたのだろうか。二〇二五年の家族の関係はどの程度家と断絶できるのかなど、次々に思いが浮かぶ。

(二〇二五年二月二日)

ESSAY

私の現在地——

『あしたの朝、頭痛がありませんように』
を読んで

伊藤充子



友人が『あしたの朝、頭痛がありませんように』という本を紹介してくれました。これは青木志帆（難病の弁護士）さんと谷田朋美（診断が確定しない新聞記者）さんがWebで連載していた往復書簡を書籍化したもの。二人は命に別状はないものの慢性疾患を抱えていて学校生活、就職、職場、結婚、家族、あらゆる場で健康体の人々ができることができない。その生活を赤裸々に語り合う往復書簡だ。

友人はこの本を読んで「いろいろ考えさせられた」そうだが、私は考えさせられる以前に共感することが多かった。そして自分が今年体験したこと、自分の老いを受

けとめることができるようになったことを振り返るきっかけになった。以下は書評ではなく、本の紹介文でさえなく単なる私の体験談である。

青木さんと谷田さんは「この社会は健康体の人々を基本にして成り立っていて人間は『健康者』と『病人』に分けられる。そして『病人』とは『病名』をつけられた人のことであって、不調を抱えてあちこちの病院を訪ねても確定診断をされて病名がもらえなければ、病人ではない」と嘆いている。私はまず最初にこの部分で強うなずいてしまった。私も病名欲しさに病院を渡り歩いた経験があるからだ。

私の症状は一〇年以上前からから始まっためまい（グルグル回るような激しいものではないが上を見たり、振り向いたりした時にふらつとする）と吐き気（嘔吐まではないが、食事には関係なく、めまいと同様な体の動きで起きる）である。と言っても青木さんや谷田さんのような「死んでいないので生きざるを得ない」とい

うほどのすさまじい痛み、めまい、吐き気などではない。アンケートでもあれば「健康」の方に○をするだろう。また私は現役で仕事をしているわけではないので仕事や日常生活に大きな支障があるわけではない。それでも周囲の人たち——自分と同年代や年上の——の活発な生き方を見ているとそれができない自分に劣等感を持つてしまう。この不快な症状に何か原因があつて医療で改善されてすっきりなれるものなら何とかしたい。それで病院めぐりが続いた。

結果的には原因不明でどこでも確定診断は出なかった。そしてここが青木さんと谷田さんの状況と違うところなのだが、私が病名の代わりに与えられた言葉は「老化」や「加齢」など。この言葉はどの医者からも言われた。おそらく多くの高齢者が言われたことがあるのではないだろうか。医者には患者が訴える症状がどうも分からないという時に、相手が高齢者なら「加齢のせい」と片づけてしまふ傾向があると思うのは私だけだろうか。階段の上り下りがきつ



青木志帆・谷田朋美、現代書館

くなった、物忘れが多くなった、血圧が高くなった、徹夜ができなくなった、などなど加齢による体の変化があるということは私たち高齢者自身はつきり体感している。自分が病気ではないかと感じる体の症状と加齢による症状は違う。老化だと「診断」されたからと言って症状が無くなるわけではない。老化だろうが加齢だろうが、不調は不調。私の症状は断じて加齢によるものではないと素人だが私は断言できる、とそのくらい、医療者の対応には不満を持っていた。

ところで今年（二〇二五年）五月に今まで経験したことのないようなめまいによる転倒をしてしまった、それも続けて二回も。ホームドクターに相談したらある公立総合病院の脳神経内科を紹介された。初めはパーキンソン病の疑い

でそれに関する検査をしたが、そうではないことが五月中に判明した。診察の時にそう告げられるのを聞きながら「あ、このあと「老化のせいでしょう」という言葉が続くはず」と思っていた。だが、その先生は違った。「でもなぜめまいや吐き気があるのか、その原因を知りたいですよ」と言われた。驚きながら「もちろんです」と私は答えた。（こんなことで驚くなんてことがそもそもおかしいと思うが）。その後、頸椎、脊椎、腰椎、耳（三半規管）と一つ一つ検査をしていった。私はいつ「老化」という言葉が出てくるかと意地悪く待っていたが、先生はあきらめずに私の症状の解明につきあってくれた。

そして九月、最終的に「医学的な何等かの病気は認められない」と言う診断が出た。その時に先生が「たくさん検査をしましたけど、その全てにおいて伊藤さんは自分の年齢の平均の数値でした。これはとてもいいことなんです」と言って、それぞれの数値の意味を説明してくださった。最後まで

で「老化」や「加齢」という言葉は出なかった。そして「それでも伊藤さんのめまいと吐き気はこれからも続くのですよね。我慢しつつ様子を見てみてください。そしてまたどうしても我慢できなくなったらまた来てください」と続けられた。

私は先生のこの言葉に単純に納得してしまった。最初から最後まで原因を探して検査をし、私のつらいめまいや吐き気の症状が老化や加齢のせいではない、と認めてもらえたことにたとえ症状が改善するわけではなくても心がホッと落ち着いた。今まで老化のせいと片づけられてきたことがちゃんと症状として認められたのだから、これが七六歳（来年二月で七七歳）の私の体の現在地なのだと思う。それでも私のめまいや吐き気の症状は現在もあるし、これからも続いていくだろう。だが、自分の現在地をしつかり確かめることができたのでこれからはその症状解決に向かって出発しよう、それが私の現在の思いである。

（二〇二五年二月一〇日）

『一票で変える女たちの会』かわらばん
★印刷版をご希望の方は左記FAX、メール、ホームページの問合せ欄からご連絡ください。

★投稿大歓迎！

本や映画の紹介、地域での活動報告、選挙や地域の政治の動き、情報、ご意見なんでもお寄せください。

宛先

Email: 1pyodekaeru@gmail.com

郵便: 〒162-0823

東京都新宿区神楽河岸1の1

東京ボランティア・市民活動センター

ターメールボックスNo. 45

FAX: 03-5684-1412

HP: <https://1pyo-de-kaeru.com>

★ちょっとピンチです！

かわらばん発行継続のため、ぜひカンパを！

郵便振替口座:

記号番号 00110-6-420003

口座名称 一票で変える女たちの会

イッピョウデカエルオンナタチノカイ

銀行等から振り込む場合:

店名(店番) 〇一九(ゼロイチキウ)

店 (019)

預金種目 当座

口座番号 0420003



★読者のみなさまへ★

一票で変える女たちの会では、「かわらばん」発行のお知らせや投稿募集、憲法集会などの情報を不定期に配信専用のメーリングリスト (ML: 1votewoman@1pyo-de-kaeru) でお届けしています (2025年10月から@以降を変更しました)。



このMLが届かない場合、迷惑メールとして処理されている可能性があります。お手数ですが、迷惑メールボックスなどをチェックして、受信箱に戻すか、「迷惑メールではない」をクリックしていただきたく、お願いいたします。

また、会からのMLが不要の方、アドレスの変更や新たな登録を希望される方は、1pyodekaeru@gmail.com までお知らせ下さいませよう、お願いいたします。

不当な難民不認定に抗議する
エリザベスさんに支援を！

with Elizabeth

ナイジェリア難民オブエザ・エリザベス・アルウオリオさんのことは、本紙49号でお伝えした。

当時彼女は、二〇一七年に申請した二度目の難民認定審査結果を待っていた。この一〇月、ようやく出た結果は不認定。この間もエリザベスさんは仮放免という就労禁止、許可無しの県外移動禁止、社会保険無しの制約に縛られながら、難民仲間を助ける活動を主体的に続けて来た。

昨年、外国人の出入国在留資格を規定し管理する入管法の改悪があり、エリザベスさんのようなケースは強制送還の対象となる。

出身国ナイジェリアは現在、政情不安定で、政治的対立、宗教的対立などにより多くの人々が暴行され殺戮されていると伝えられる。エリザベスさんは故郷のビアフラ独立運動の国外メンバーで、

敬虔なキリスト教徒でもあることから、帰国すれば迫害され、生命が危機にさらされる。そのことだけでも十分難民資格の国際的基準を満たしている。この事実を無視した不当な審査結果に対して、異議申し立ての手続きを行い、再審査を待っているところだ。

日本の難民認定審査が甚だしく厳しいことは国際的に知られており、法律家や研究者は日本の難民認定率が低いのは、主に誰を難民とするかの基準、および手続きが適正に行われているかの基準に問題があるためと指摘している。(難民支援協会HP)

エリザベスさんは緑内障に加え、両膝関節症という疾患があり、専門医から人工膝関節置換術の対象と診断されている。一般によく行われている手術だが、社会保険のないエリザベスさんにはその費用をまかなう手段はない。

先の見通しもないまま、エリザベスさんは今日も、膝に負担のかかる重いスーツケースを杖代わりに、空港から町から入管収容所から助けを求めてかかってくる電話

に応え、歩き回っている。彼女が歩行困難になれば、本人はもとより、最も困るのは彼女の助けを生きる支えとする人びとだ。

エリザベスさんを支援する市民グループ with Elizabeth (エリザベスとともに) では、このほど彼女の在留許可を求める裁判の費用や両膝人工関節症手術のための資金を集めるため、緊急の募金活動を始めている。

カンパ振込先

常陽銀行

友部支店 普通

番号 80125548

名義 ミツイフミヨ

*ご送金の際はメールでお名前と連絡先をお知らせ下さい。

